HQ
1104
J74+

Mar. 189
no. 307

女學雜誌

第三百七號

明治二十五年三月五日發兌

千利休及び茶道

疱瘡の論

熊本英學校事件（再び）

女獻身者

近縣酌婦制痛論

下六番町六番地

女學雜誌社

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 307. MARCH 5TH. 1892.

EDITORIAL: —What is Meant by "Kokka Kyoiku."

LEADING ARTICLE: —Sen-no Rikyu and "Cha-no-yu," by Mr. S. Hoshino.

CHILDREN'S COLUMN:

QUESTION AND ANSWER: —Are Women Capable of Self-Sacrifice?

MISCELLANIES: —How Women are earning their living in a Certain Prefecture?; "Child in a Cradle" (A Poem); Small-pox and Vaccination.

CRITICAL NOTES:

TOPICS OF THE DAY.

NEWS OF THE WEEK.

第三百七號目次

●警告　熊本英學校事件（再び）

●論説　千利休及び茶道を論ず（星野慎之輔）

●兒籃　白つゆ（去りし時）　さち子

●問答　女子献身者ありやなしやの問並答

●雑録　近縣の所云る酌婦○搖籃の兒（紫苑山人作歌）○疱瘡の話（上）

●批評　●一覧。奇なる性字。福澤出身の新議員の見出。

●時事　伊藤伯の辭職○勝伯を弔し且つ毀す

●女報

簡易出版　豫約募集廣告

小生が、明治女學校高等科女生に口授したる講義の中、左の二書に錄したるものは、些さか大方の是正を請ひ度ものあり、且つ地方に在る女生にして其筆記を見たしと要むるものもあれば、簡易出版法（ミミチグラフ）を用ひて之を印刷せんとす。同時に毎號殘餘二百冊を得べきに付、下に記す條則にて豫約者に分配せんとす、

女學雜誌社　巖本善治

○講義錄

教育學

女學

憾むらくは世上の君子と意見を異にするものもあるべし、左れど讀考窮査して多少の意見を開陳せり。

年來此の一科の學を講ずるの必要を感じたる也、前年田口鼎軒君は痛たく之を駁し玉へりしが、遂に尙之を講述す。

右二書各々、一冊中本四十頁物にて、月一冊を配付し。凡そ一年にて完了す。

○代價定

「教育學」「女學」ともに一冊各五錢、郵税二錢、一年分、郵税合せて八十四錢（社に來受せらるゝ人は郵税なし即ち六十錢）の定め、一方丈を約せらるゝも可なり。

○豫約期

四月一日に第一冊を配付す、毎號二百冊に限る。豫約申込は、一年前金封入、三月二十日迄の事、兩書ともに豫約の人は前金半年分納あるとも無差支。但し定數に超る時は謝絶す。事務は、下六番町女學雜誌社にて辨ずる事。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第三百七號
明治二十五年三月五日發兌

警告

熊本英學校事件（再び）

此事件に對し、一派は知事の命令を一と先づ承け、而して后ち天下に訴ふるとなし、他の一派即はち評議員の多數は之に不同意を表し、校長及生徒を遺して分離せられたり。后なる分離派は、井上友次郎、濱田康喜、檜前捨次郎、草野門平、奈須義質、田中賢道、奥村禎二郎、高瀬敏徳、片山與太郎、園田安馬、白石保眞、木庭利器三、大迫眞之、濱田虎、柏木義圓の十五氏なり。而して、他十四氏が同意を表する柏木氏の心事開陳の文、左の如しと云ふ、

吾人の心事を開陳して男女兩學校諸氏に告別す

柏木義圓

余は幸にして平生の素志に循て、今回の進退を决するを得たり、諸君と別るゝに於ては更に一片の遺憾なきなり、唯不幸にして余の大義とする所は反て是れ諸君の眇視する所なるは、余の如何にしても安せざる所なり、諸君は諸君の信じ玉ふ所ある可し、然れども余は諸君と共に一年有餘講習せし所が、徒らに空言に屬し終りしかを、思へば、余は如何にしても安んする事能はざるなり、余は聊か確認する所あり、諸君をして余の大義と確認する所の誤謬なるを知らしめ能はざる間は將來兩學校如何に榮ゆるも、其義氣凜然たる學校なる事は之を信ずる能わざるなり、余の信ずると信ぜざると諸君に於て何かあらん、然れども余の衷情を披く時は、如何にしても兩學校の大義を誤りしものに非らずと確認して之に安んずる事能はざるなり、諸君が諸君の意見を固持せらるゝ間は、余は如何にしても之に安んずる事能はざるなり、別に臨んで此言を爲す、万々諸君に對して無禮なるを知る、然れども是れ余の眞情なり、別に臨んで眞情を吐露す、是れ余の諸君を信じて平生に負かざらんと期する所、唯余の所見と眞情とを直情傾倒して、幸ひに諸君の淸覽を瀆すを得ば、諸君數千言の贈辭に優りて余の滿足とする所なり、希くば左に傾倒する所に由りて余の心事を看取せられんことを

余は不羈獨立なる私立學校教員解雇の命令に斷然承服すること能はざる者なり、其理由とする所の概要は左の如し

(1)日本の革新を以て自任する不羈獨立の私立學校として斷じて之を受くる事能はざるなり若し奥村氏の演説を以て、教育に關する　勅語の旨趣に反するとして、此命令を發せしとせんか、是れ一個の私意を以て、聖意深厚悠遠なる、　勅語の旨趣を曲解し、恣に人の思想言論の自由を妨け、教育界の神聖を蹂躪する者なり、若し教員に不適當と云ふが如き、曖昧なる理由を以て此命令を發せしとせんか此の如き理由を以て俗吏の私立學校に干涉する事を許さば、决して國家の命運を指導する程の、不羈獨立の元氣ある、雄大なる學校の存立せん事を望むこと能はざるなり、滔々たる學校、悉く是れ一技一能に衣食して安逸を貪らんとする機械的の人物を陶造するに止る可し、吾人は　勅語を濫用して我教育界を蹂躙せんとする儕輩の膽を破り、私立學校の不覊獨立を輕んずる俗吏の惑を覺まさんが爲めに、斷じて此命令に服せさらんとする者なり

(2)我國人の最も短所とす可きは、自家の權利の神聖を重ぜざる事に在り、曖昧なる命令に容易に服從する、豈立憲政下に生息する不羈獨立を重ずる自由人民の行爲ならんや、未だ理由分明ならずして、早く此命令を受くると受けざるとは自由人民權利の消長に關し、特に日本立憲政躰の躰面に關するなり、立憲政下には不羈獨立權利を重ずる硬骨男子なかる可らず、吾人は不羈獨立の權利を重ずるが故に、斷して此命令に服せさらんとする者なり

(3)私立學校の命脈は、實に社員教員生徒互に相信任し、義を以て相結び苦樂相共にする所に在り、然るに或者が不當の命令を發するに當り、十分其理由を求て抗爭す可き權利と理由とを有し乍ら、未だ分明なる理由なくして、其忠實なる教員を解雇す、然らば同じく此の如くして校長をも解雇するか、同じく此の如くして其生徒をも退校せしむるか、若し其校教員にして革命的の煽動を爲すか、若しくは風俗を壞亂する如きあらば、之が解雇を命令する、盡し其筋の職權ならん、然れども今回の事たる、其筋には自ら其理由　ありとするも吾人は其理由を知らさる

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

なり、其筋よりは其職權を以て解雇の命令を下さするも、私立學校たる者は、別に其校教育にして不都合なしと認めは、之を解雇せさるの權あるなり、教員を解雇するさ、解雇せさるさは、自ら是れ其學校の權內にあり、之が爲に廢校せらるるさ、否さは、自ら是れ別問題なり、苟も解雇の理由なしさ信ぜば、第二の處分なるを覺悟して之れを解雇せさるは、自ら是れ私立學校々主の神聖なる權利にあり、況んや其理由分明なるを待て解雇す可しさ爲し、飽まて其理由を求めて止まさるは、實に穩當なる處置に非すや、未だ其理由を盡さずして廢校を命するが如きあらば、是其職權の濫用なり、然るに此權を持し、此理由を携へ乍ら、之に由て推し行かず、未だ其理由を盡くさずして、其忠實なる教員を解雇す、(中略)其責實に學校に在り、教員に對しては學校飽まて其責に任ぜざるを得ず、且つ此の如くして、解雇せば、其教員の名譽毀損の責は學校飽まて其責に任ぜさるを得さるなり、既に理由なくして其教員を解雇し、其の教員に對する處置不當の責を他に推委せんさするは、決して不覊獨立の學校の行爲に非さるなり、學校にして其校教員に此不當の處置を爲さば大義を重するの旨趣何くに在る、苦樂相共にするの實何くに在る、此の如くにして尙ほ忠を說き、信を說き、以て生徒を教訓す、吾人は其千言万語徒らに空言に屬せん事を恐るゝなり、故に吾人は平生言責を重して斷然命令に服せさるの决心を爲す者なり

吾人の重する所は、學校の主義精神にして、其形骸に非ざるなり、形骸存するも、其主義精神にして消滅せば、將た何の望か是あらん苟も其主義精神にして、凜乎さして存せば、其形骸の如き一時消へ失するあるも、更に倍舊の勢を以て復活し來るを相するなり、若し此精神にして凜乎さして存せば、大に天下の士氣を鼓動し、一の熊本英學校に死するも天下に百の熊本英學校を起すを得るなり、我校一たび義に由て死するも、更に凜乎たる義氣を以て復活し來るの望みあるのみならす、天下幾十の私立學校をして皆我熊本英學校さ爲すを得るなり、吾人は胸中確さして此意見を抱き必す之を實行せんことを期せり、然るに是非此精神なかる可らざる生徒諸氏にして、全く吾人さ所見を異にし、吾人をして其精神を代表するの望を失はしめたり、於是か吾人遂に此確信を男女兩學校に實行する能はさりしは、實に千歲の遺憾なり、嗚呼學校の形骸の爲めか、若しくは臣民の義務云々さ云ふ小見解に拘泥し、遂に大義を誤るに至りたるは、是れ畢竟吾人平生の講習未た足らさるに坐するのみ、吾人は諸君に盡すの未だ足らさりしを自ら責めさるを得さるなり、諸君は憤實の爲めに大義を誤りしに非さるか、敢て諸君の三思を煩はす、

或は曰く今回の事、未だ殉死するの價値なしさ、不覊獨立を重するさは如何なる事か、權利自由を尊重するさは如何なる事か、義理を重するさは如何なる事か、改革さは如何なる時に如何にして爲す可きか、正を踏んて懼れすさは如何なる事か、知事が不當の命令を下せし時には之を適用す可き限に非さるか、果して其命令の不當なるを確認せは之を法庭に爭ふへし、之を文部省に具申す可し、而して其理由分明なるを待て後ち之に承服す、何の不法か是あらん、却て是れ立憲政下に生息する自由人民正當の權利なるなり、然るに爭ふ可き權利さ理由さありて、上知事に向て之を爲さず反て下信任す可き教員に向て、不當にも解雇の處置を爲す、是れ義擧か、是れ正を踏んで懼れさる者か、嗚呼是れ不覊獨立正を踏んて懼れずさ公言する學校の精神なるか、果して是れ小事、殉死するの價値なきか、平素公言せし精神を實行するさ否さの判する所、是れ小事なるか大事なるか、一言の爲に死し以て言責を重する、是れ義烈なる丈夫の精神に非すや、我熊本英學校は平素公言せし所の教育主義の爲めに殉死する義烈なる精神なかりしか、嗚呼吾人は實に千歲の遺憾に堪へざるなり、吾人ば實に英學校に此精神の復活せん事を望んで止まさるなり、

或は曰く受けずして其理由を爭ふさ、受けて後ち徐ろに之を爭ふさ其精神や一なり、異なる所は唯其手段のみ、何ぞ之が爲めに分合を决する程の事あらんやさ、是れ大に吾人の心事を誤る者なり、是れ其眼中に利害ありて正邪なきものゝ言のみ、(中略)吾人は曖昧なる事を爲さゝるに在り、不義なる事を爲さゝるに在り、不覊獨立の權利を屈せさるにあり、私立學校の威嚴を損せさるに在り、教育の獨立を全ふするに在り、吾人は屈せさるが爲に爭なり、吾人は不當の處置を爲すに忍びざるが爲に爭なり、既に權利を屈し、既に不義を爲し、而して後爭はんさす、將た何の爲にか爭はんさするか、一たび屈するは既に屈せしなり、一たび不當の處置を爲す、既に不當の處置を爲せしなり、蠖屈云々は是れ處世の方便に就て云ふのみ、義を缺き權利を屈する時に决して適用す可き言に非ざるなり、堂々たる學校の權利を屈し義理を缺く時に於て决して用ゆ可き言に非さるなり、受くるさ受けさるさは决して手段に非さるなり、

或は曰く既に職權を以て命令を下す、其理由の當否は措て問はす、之を受くるは是れ國民當然の義務なるなり、之れを受けさるは國家を輕する者なり、其の命令は是れ我　聖上の御聖旨を代表する者なり、一應は其命令に服せさる可らさるなりさ、嗚呼是れ進歩主義教育を以て自任する學校の公言す可き辭なるや否や、ハンプデン氏が不當の納稅を斷乎さして拒絕せしは、平素我英學校の非難せし所か、抑も稱贊せし所か、剛直忠誠なる信徒片岡健吉氏が保安條例の處置に服せす、屑よく入牢せしは是れ我英學校の非難せし所か、仰も稱贊せし所か、吾人は

深く此の如き言辭を口にせしのみならす、之れを新聞紙に迄堂々英學校の名義を以て公けにせしは、英學校本來の主義に照して實に痛惜に堪へさるなり、此の言辭は果して英學校本來の主義に適合するか如何、嗚呼自ら其命令を以て理由なき不當の處置と知り乍ら、我　聖上の欽定し玉ひし憲法の精神に從て抗爭するの餘地を有し乍ら此の如く唱へて以て不當の命令に服從す、吾人は立憲政下に生息する自由人民の行爲としては決して之を信する事能はさるなり、吾人は絶對的に其の命令を拒絶せんとする者に非らさるなり、吾人は其理由の明白なるを待ち自ら其命令の至當なるを信して後之を受けんとする者なり、然れども不當の命令には決して服從する能はざる者なり、吾人は日本の法律に訴へて受く可らさるかを決せんと欲する者なり、吾人は日本憲法の精神に問ふて受く可きか、受く可らさるかを決せんと欲する者なり、吾人は文部の方針に質して受く可きか、受く可らさるかを決せんと欲する者なり、吾人は輿論の公議に由り、眞理の判決に照して受く可きか、受く可らさるかを決せんと欲する者なり、吾人の受く可らすと云ふを以て國民の行爲に非すと謂ふは、吾人は決して其理由を解する事能はさるなり、或は曰く理由不分明の命令は、斷して之を受けさる善し、然れども之か爲に閉校を命せらるゝ時は、百數十男女の學生を奈何せんとするか、と、實に然り、然れども吾人は常に謂ふ大事を決する宜しく利害に由らすして正邪に由る可しと、堂々主義ありと稱する不羈獨立の私立學校にして、穩當に抗爭す可き餘地を有し乍ら、理由なくして其教員を解雇して以て信義を缺く、諸君は平素ハンプデンを稱贊せさりしか、クロムウエルを稱贊せさりしか、米國革命の義士を稱贊せさりしか、彼等の爭ふ所は税のみ、然るも尙ほ不當の命令に屈せさりしに非すや、多年忠實に精勤せし教員の進退に關する事を堂々たる主義なる私立學校にして容易に其命令に屈從す、尙ほ是れ小事主義に關せすと爲すか、學校存廢の利害に由りて、大義を誤るか如き事あらば平生教育の精神に戾るに非すや、且つ吾人は道理に由て考へ來る時は、命令の理由を求めて遽かに之に服せさるも、決して廢校せらるゝが如き事なしと信する者なり、苟も道理を辨する限りは、たとひ廢校の訓令を受け居るも、是れ彼れが最後の手段のみ、吾人か斷然命令を拒絶して返却せさる間は決して廢校せすと考るものなり、故に吾人は落付て之に應せさる可らす、吾人信義相結び、苦樂相偕にせし、教員を理不盡に解雇するは、義を重んするの學校として、決して之を爲すに忍びす、苟も教育を重する者は此等の點を公明にせさる可らす、情を盡して其理由説明の請願を爲せり、苟も立憲政下人民の權利を重んし明治政府教育を重するの精神を體する者は、必す其理由を説明す可き筈なり若し不親切なるか、或は事由に暗らくして己れの權を恃み、之を説明せすとせんか、吾人は更に其筋に向て理否を質すの道を有するなり、而して命令の下りし日より奥村氏の授業は之を停止し居れり、既に我校は奥村氏をして授業せしめ居らす、此理由を正當に求め居る者なるに、何の理由を以て廢校を命せんとするか、然れども彼若し道理の外に出で、廢校の命令を發せしとせんか、我に於て一點の疚しき所なし、吾人は既に死せり前途唯復活の望あるのみ、吾人の鋭氣於是か百倍し、大聲疾呼して天下の同感者に訴へなば此時に於ては解雇の命令よりは一層天下の輿論を喚起するを得可し、嗚呼廢校の命令一たび下らば天下の義人は大に奮起せん、天下の私立學校は蹶然として起たん、於是か吾人の經綸大に施す可きなり、

今回の事其成るは輿論を動かすに在り、政治法律家の問題と爲すに在り、私立學校の問題と爲すに在り、既に然れば其筋に於ては愼重に之を稽査し必す公正の處置を爲さゞる可らす、而して事此に至れば之を國會の問題と爲す敢て難きに非ざるなり、今回の事之を熊本の問題と爲さは勝算なし、若し一旦輿論を動して天下の一問題と爲すを得ば、既に吾人に八九分の勝算あるなり、否からざれば文部決して動かさるなり、國會決して頓着せさるなり、雖然人間は冷淡なる者なり、之を熊本一偏地の小事として、無頓着なる可きは勿論の事なり、されば此冷淡なる者をして動き起たしめんには、我先つ自ら此問題の重大なるを確信せさる可らさるなり、自ら此問題を輕して未た殉死するの價値なしと爲し、爭で人をして之を重して動き起たしむ可んや、吾人にして此事の重大なるを識認し、之が爲には形骸の學校は犧牲にしても顧みさるの決心を爲さば、天下の輿論豈之れか爲めに動かさらんや況んや、理不盡に廢校の命令を下すか如きあらば必す天下の一大問題となり、蜻蜓洲の首尾を震動す可きや必せり、時は宛も好し、總撰擧既に終り、天下の輿論は東西相應して政府の失政を攻擊し掛るの時なるをや、今回の事其成否は實に之か爲に殉死するの價値ありと信すると信せさるとに在り、若し事輕小にして殉死するの價値なしとせば、初より默從するに若かさるなり、天下の輿論に向て之を訴ふるか如き、實に輕躁の處置と謂さる可らす、故に吾人は成敗の算よりするも、理由不分明なる限りは此命令に服せさるを以て策の得たる者と信せしなり、吾人は明に信す命令に屈從せすして不幸にして廢校せらるゝも、必す遠からずして青天白日を見るを得て、甫輿の幸運に接し、時此に至らは我校の信用名聲九州に轟きのみならず、天下の私立學校をして九鼎大呂の重なるに至らしめしなるへしと、嗚呼此大任に當るの機に遭遇し乍ら、平素改革を以て自任する我校にして果斷決行を爲す事能はず、遺憾々々、

（以下次號）

論説

茶道論

天知子

（一）茶祖利休の人物

茶は禪僧の手を以て日本に始めて輸入し、又禪家の手を以て專ら蕃殖せられしを以て、終に禪學の道念融和して茶道あるものを創造するに至りし也、一休禪師茶を贊して曰えらく是れ心眼を覺し大に吾宗禪定の一助たるべしと、終に盛んに禪家に行はれて武家の間にも入込むに至りぬ。室町將軍一世の驕奢が頗る茶道を惡化して全く奢侈三昧に墮落せしの時、室町家の同朋役千阿彌なる者あり、慨然として矯正の志深し、專ら普通國師に禪を學び道陳、紹鷗に茶道を温ね、終に世俗の茶道を看破し、大に奢侈を警醒して佗茶の一派を新説す、此人名を田中與四郎といふ、一種の氣慨ありて道念頗る高靈に達す。當時戰亂の氣天下を覆ひ人皆殺伐放蕩の無情氣風と成り、殺戮奪掠の豺狼、欺騙策略の狐狸、互に敵意相睨むの黒暗時代に於て、融和的の美育と沈靜的の練膽と謹儉的の德育とは實に必要たりしなり。而して茶道は全く此要點に向ふて發作せしなり、眼は血に親み心は骨に化するの陣中に於て僅かに美の閑日月を與えて彼の謠曲と共に能く暗黒時代を照したるものは實に茶道にてありつるなり。此眞理を懷ひて最も剛膽氣慨ある此一市人は信長公に仕へて未だ驥足を延るに足らず、更に秀吉公に仕へて稍々一道の紅焔を發起し、三千石の厚遇を受けて儉謹能く公を誡しむ、和と敬と淸と寂との四要素を以て大に諸侯を敬服せしめ、頗る歸依する者天下に多し、當時激流をも逆昇すべき秀吉大閤其人をして、畏怖の念を起さしめし程に多くの上流人を歸服せしめしを思えば、以て其人物を知るに足るべし。殊に强勢なる大閤の嚴命と强迫とに動かず道を有ちて安然と白刃を甘受せし膽力は以て其人物を知るに足るべし。其娘を妾とせざるの故を以て殺されたりとの傳説は或は然るべしと雖ども又其人物を恐れし猜疑心より來らずんば非ず、以て其人物を知るに足るべし。死後其木像が秀吉を白眼たるの故を以て手討にされたるの事實は、何かに秀吉の心に恐怖の念を懷かしめしか以て其人物を知るに足る可し。千阿彌ある田中與四郎は實に千利休宗易居士の名

を以て一世を風靡するに至りしなり。

利休沒後治世打續くに從ひ、人心奢侈の墮落と共に茶道も亦漸く精神を失ふて全く閑人の遊藝と成り下りしなり、吾人が武道の遺憾と何ぞ異ならん、然れども後の將軍未だ見る所違はず、茶の師範役を選むに藝の達人を用ひず、古田織部正、小堀遠江守等の武道悟入者を登用したりしなり、此頃武道の勢力社會を壓するの時なるを以て、爲めに大に茶道の聲價を助け、終に武道と稍々混和するの傾きとはなりぬ。利休は實に哲學的の好漢たりしなり、彼れが眼中には榮利なく權勢なく地位なく、殆んど物質世界を嘲罵して平民的を好むの畸人たりしなり、其菴の看板に書するものを見るに其中に言へらく

一 手水の事專ら心頭をすゝぐを以て此道の要とす

一 菴主出請じて客菴に入るべし菴主貧にして茶飯の諸具不偶美味も又なし露地の樹石天然の趣其心を不得輩は是より速に歸り去なり

一 菴內菴外に於て世事の雜話古來之禁

一 賓主歷然の會巧言令色入可らず

一 一會始終二時に過ぐべからず但し法話淸談に時うつらば制外

而して又其記錄に曰く、城邑山谷其地を選ぶ可らず窓庇のあはれ柱のよろぼひたるをば耻べからず唯心地の平坦を思ふべしいかなる大人貴客も此院に入ては世路の華美を忘れ塵網を踏破して雲外の賓客と成る匹夫も爰に腰を折るをゆるさず云々。

而して彼れは多く記錄を殘さず、好んで傳はらざるを其主義とすといふ、且禪の觀念より來りしものなりと雖も總て『虛無』を以て其道の奧義とするが如し、之れ亦老莊一派の哲學者なるかな。

(二) 文武及び禪道の鍛練

敎育とは人道を自覺せしめて人物を鍛練するのとなり、而して鍛練とは終に自覺に達するの行路にして又自覺とは『知る』と『行ふ』とが一致同體となるの謂ひなり、故に人は動神經を刺激すると感神經を刺激するとに由て敎育せらるゝものなり。

武道の敎育は則ち此動神經を刺激して感神經に傳えしめ以て

意志を敏捷強健ならしむ、意思の強健なるは即ち膽力氣慨を併せ養ふものにして、此鍛練は終に實行の人たらしむるの傾きを成る、實行とは即ち自覺の謂なり、故に先づ剛志を養ふて己れに克つヿを學ぶ者にして、敵に克つを第二の技藝として其實行を試みしむるのみ、實は彼れを撃つを練るにあらずして己れを撃つヿを鍛ゆるの教育なりとす。

學術の教育も其動神經の刺激より感神經に傳ふる者なりと雖ども、其動神經の刺激は極めて微弱にして知力を敏捷強健ならしむると猶武術の意志に於けるが如し、知力の強健は即ち考慮識才を養成するものにして理想憶念の人たらしむる傾きあり、之れ文武を兼用するヿが教育上必要とする所ならずや。

禪家の坐禪教育は則ち此動神經の活動を禁止的に痲痺消亡し以て感神經をして孤立煩悶より活動を敏捷ならしめ、其敏捷なる感情を皮肉の感覺と共に排除して意志の强健即ち膽力を修錬し、終に『我れ』を確認するの人たらしめんとす、『我れ』を悟るとは即ち自覺の謂なり、故に古來禪學は武道と連結せるの教育法なりき。

茶道は即ち禪學より出たる者にして、從ふて其本躰武道と相似たり、故に茶の湯の末技に誤つヿなく能く其本意を修錬するを得ば、更に教育の好手段たりしを知るなるべし、吾人は茶藝に誤たるゝの人に向ふて警めずんばあらざるなり。

（三）茶道教育の要素

茶道は其教育鍛錬の精神に於て武道と禪道とに似たるものありと雖ども、其鍛錬の要素に於ては異なるもの多し、例へば武道は剛より入りて柔に至り、急より緩に入り、劇より寂に達し、大活動より大沈靜を練るものにして、禪道茶道は柔、緩、寂の大沈靜より剛、急、劇の大活動を修養するものなるが如し。而して茶道の要旨左に擧るものを見よ、

第一團欒和親の美育。　人は清き業務を爲すヿに由て敎へらるゝものなれども、若し事務の腦髓を一洗し去りて悠然たる和樂に談笑するの時なくんば、人情を温められて愛なる大教育を受るヿ能はず、無味冷塊の心情と成りて發達せざるの人と成るべし。人は飲食の際には多く心裕たかにして總べての事を歡受し得らるゝものなり、茶を啜り菓子を食し、爐を圍んで睦ましく團欒することは和樂幸福の室家的道念

にして、俗濁なる人の心を清浄ならしむるの友愛的美育ありとす。クリストが晩餐の食卓上に於て弟子等と告別するや、團欒和樂の愛育は最後に大師が遠永に迄弟子の上に迸らしたる愛の感化なるべし、人世に飲食ある所以のものは決して腹の爲めにあるに非ず、啻に筋肉生長の必要のみにはあらざるなり、此好都合なる人世に於て飲食せずんば生活し能はざるの極めて不都合あるとは他に大に其必要なくんば非ず。饑渇は人を眞面目にするの警誡にして飲食は人を和らげ親しむるの慰問あり、俗物俗界に若し飲食なくんば彼等は殆んど酷薄冷塊の魔物となるべく、家も國も今より一層の紛亂闘爭の暗谷たるべし、故に萬國皆自然の發達より祝祭和樂の集會に之を用ゆると一途に出づるを見るならん、一腕の茶一塊の菓子、未だ極めて些末の物と言ふべからず、笑しげに集り來るの人爐邊に早く春を作り、席上忽ち和樂室家に坐するが如き感あるものは、武道と禪道とに欠く所の要素なるべし、古來屢々戰國の人心を和親せしめんが爲に之を用たるは故あるかな。

第二静坐默念の修養。茶道は繁劇なる事務家の修すべき技なり、煩忙勞働の戰場より閑息すべきのホームに歸り來る時に於てこそ最も効力ある坐禪觀法的の修養なれ、何んぞ徒らに優遊閑居の飽食人種が玩弄ずべきの遊技ならんや。人は少なくとも一週に一日は静坐默考するを要す、吾等が日々に爲したる仕事と己れの所行の如何に付き、静かに反省熟慮して更に將來の經綸を定む。人は又折々閑日月に逍遙して家人及び朋友等と清談快話するを要す、然らずんば終に乾燥無情の野獸的性質と成りて美育なき沙漠界の人となるべく靈性の發達極めて鈍し、是を計算を疎かにする商人に譬ふ、日夜營々拚ぐと雖とも計算熟慮の時なきを以て、商計商機に拔目多く終に拚ぎて家を興す能はざる者なり、静坐默念の時は恰も計算計畫の時の如し。

夫れ静坐默念は己れを明かにし妄像の迷ひ息む時なり、妄像息ば寂念生じ、寂念生じて宗教心現る、此心現れて始て眞理明かなるものなり。閑静寂寞の地に遊ぶ人、心の塵掃はれたる想あるものは、抑々此修養の入口なれ、茶道實に禪學と此修養點を同ふせり。

第三敬禮及び坐作進退の修養。禮は人の心を嚴かにし且つ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

正ふせしむるものなり、殊に其美の性質は能く心を清め和らぐるものにして、坐作進退の規律と共に能く其躰を整ふるヿを修練す、而して躰を整ふるには先づ心を鎮靜して氣を臍下丹田に深く沈め、腰を重くし指先きに氣を籠むるなど、能く禮節の敎理に伴ひて又武道の修養に此點を同ふするなり、故に膽力を練るのヿ實に此所に出づ。嘗て豐臣公が茶道練膽のヿを冷笑し、鎗を閃めかして突然利休を試み、大に嘆服せしといふの談は實に然あるべきヿなり、後世の宗匠道念卑くして宗敎心なく、終に練膽のヿを疎かにするに至りしなり。此謙退辭讓なる禮節は稍々平民的の思想を養ふて一種の美風を敎ゆるのヿを成せり、殊に風致温雅と整正泰然たる風采は頗る品性の美を養成するヿ著し。

（四）　茶道の極意

茶道は禪學より出でゝ人物修養の一材料たるものなり、茶杓の扱方、茶筅の動かし方の如き、數寄屋の搆造庭前の見込の如きは、抑々武道に劔を舞はし拳を働かしむるが如し、之れ躰を整え膽力を練り以て人道を自覺せしめんが爲めの修養手段のみ。人あり茶道の極意を問ふ、茶祖利休答えらく

茶の湯とはたゞ湯をわかし茶を立てゝ
　　のむばかりなる本を知るべし

紹鷗宗匠は家隆卿の歌を以て解すらく

　花をのみ待つらん人に山里の雪間のくまの春を見せばや

何等痛慨の詞ぞ、滔々たる後世の俗骨驕客等が翫弄の遊藝と成りたるは恰も武藝墮落の嘆に似たるかな、之れ併しながら宗敎心なき俗人等の手に落つるや、忽ちにして皮相をのみ學ふの弊と成るは勢ひ免れざるの事實にして、茶杓一本を弄ぶの際に於て早くも奢侈迂濶の悪風は其人を墮落せしめ、其技藝をも無精神たらしむるに至りしなり、居士等が千歳の遺恨知るべきのみ。

以上說き去り說き來る所の觀念を以て學ばゝ、演武道場薙刀を舞はし躰術を修するの勇氣ある婦人をして、心を鎮め度胸を養ひ氣を練り思慮を深くし、威風態度を整ふる等最も女子敎育の一材料として極めて必要なるものたるべし、唯恐る能く此道念ある敎授者なりや如何、今の宗匠は我れ多く其宗匠たるを知らず、宗匠の文字果して如何かは宗匠の能く知る所なりや、吾人最も之れを悲しむ之れを悲しむ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

兒籃

白つゆ（下）

第二　去りし時

さち子

其後二三週の間、來部さんの經驗は、いろ〱でした。或時は、自分が今迄間違つて居つたので、實は子供は好きなので、小供と云ふものが、こんなに可愛ひものだと云ふ事を露知らなかつた。富がいなかつたら、どんなにか淋しからうと思うと、又或時は、富が二階で水わるさをして、下えそれを漏らすときなどは、矢張自分は子供嫌の樣で、どう見ても、子供と云うものは、うるさいものだと思ひなほしましたが、それも暫時の事で、よく〱來部さんの心を探て見ますと、自分は承知しようが、しまいが、とう〱小供は大好になつてしまいました。十一月の或る夕方、來部さんは、いつものように仕事をして居りました、そばで、富は、ストーブの火をながめて居りました。叔母さんは、富が大そうをとなしいと思つて、顏をのぞきましたら、富の眼から、大きい涙が頰を、傳つて流れて居りました。

チヤ、富はどうしました？

富は、ヲトッサンとヲッカサンに逢ひたいのですよ、ヲトッサンとヲッカサンがいなければ、キットそんなに面白かァないでしよう。

何？、何かあるのですか。

十一月の十二日は、私の誕生日なのですよ、今日は幾日です。

今日は、六日ですよ。

七日で一ッ、八日で二ッ、九日で三ッ、十日で四ッ、十一日で五ッ、十二日で六ッと、そうすると、もう後六ッねると、誕生ですねー、去年は、ヲトッサンも、ヲッカサンも、一所にいらつして、一所に遊んで下すつたけれど、今年は……。

と、後は言ひ兼て、叔母の膝え、つッぷして泣きました。

サァ、サァ泣いていけませんよ、ヲトッサンも、ヲッカサンも、富がこんなに泣くのを見るのは、いやでしよう、がまんして居ると、いまに、ふたりに逢へますよ、そうして、富がヲトッサンの所へ行てしまへば、叔母さんは、どんなに淋しひか知れやしないよ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

そう、ほんとに、大へん淋しう御坐いますか。
そうだとも、さあ、サア、叔母さんは、富の誕生には何をかつて上ようね、三日の間お考へよ。
此言葉で、富は、早速涙をかはかしまして、いろ〳〵と首を捻つて考へました。御菓子か、自轉車か、此間玩弄物舗にあた蒸氣か、馬かと、種々考へましたが、どれにも余り氣がのりませんでした。
叔母さん、何がいゝか、わからないから、今夜神樣に伺つて見ましよう。
と、其一言で、重荷でも下したように、よろこんで、臺所へかけて行き、ペテのひる寐起をし、常のようにさわいで、遊ました。其夜いつものように、叔母に寢卷を着せてもらひ、
サヽ坐つて頂戴よ、お祈りだから、今夜は、たんと祈る事があるから、早くしないと、忘れて仕舞ます。
と、いつもの祈りの、末に、
神樣、今日、叔母さんが、誕生日になんでも欲しひものを下さると云ひましたが、何がいゝか敎えて下さい、又どうぞ、私しを強くして、泣かないようにして下さい、そうして、早くヲ母さんに逢せて下さい、
叔母は、此終りの言葉で、胸がドツキリ致しました、
富や、御生だから、そんな事を云わないでお呉!。
なぜです、叔母さん……、ア、そう〳〵、忘れてしまひました。……神樣、叔母さん、私しがいないと淋しひと云ひましたから、お仕舞の方はお止めにして、始めの方を、三日の內に答へて下さい、アーメン。
其後二三日の間、富は、何か心に懸る事でもあるような樣子振でしたが、二日目には、朝より大きげんで、いろ〳〵いたして居りまして、叔母さんが、
何に、きめました?、
と尋ねました時に、富は、もつて居た弄物を下へおいて、まじめな顏をして、
叔母さん、小供だつて、七ツになれば、何かいゝ事をしなければ、いけませんはね?。
と、思ひ掛ない質問に、びツくらし、又其質問の大人びたると其質問者が餘り子供げて、其差が餘りの事故、笑ひながら申しました。

そうだとも。

叔母さん、笑わなくッてもいゝよ、私は誕生の祝ひ物を考へましたよ、私は、私の友達を招いて、御馳走がしたいのですが、いゝの？。

於前には、別にまだ友達はないでわないか、誰をよぶ積りなの？。

あの洗濯屋の叔母さんと、あの人の子供たちを呼たひのです。此間、あの洗濯屋さんが云ましたよ、家が大そう貧乏で、六人も子が有のですと、總領の子は、十年も病氣なのですが、大へんいゝ子で、いくら苦しくつても、をとあしくして居るのですと、此間、私の六錢をやッたのですよ。

來部さんは、頁心に責められました、此洗濯屋は、一年餘も此家に出入をして居るのですが、來部さんわ、其人の貧乏な事や、病人の事をきいたのは、これが初めてでした。此時深く恥ぢ、心密に自分が足らなかつた事を、見とめました。

それは、大そういゝ思付です、早速仕度にかゝりましょう於前の好きなものを、こしらへま升。

富は、嬉しくつて、チットしては居られません。其後は、叔母と一所に、彼方此方とかけまはり、何か出來ると、私が味を見て上ようなどと、をこしや振て、實は食べたい心を滿足させる其樣子ぶり、叔母を笑はす事が度々でした。

とう／＼、其日になりました。四時から來る、客を、朝から待ちつゝけ、少しも氣が落ち付ないで、あちらこちら、ぶら／＼して居りました。

叔母さん、あの御菓子は？。

臺所にあるだらうよ。

イエ、ありませんよ。

時に、花が臺所から首を出し、

菓子は、まだ菓子屋から參りません。

ツウ、それでは、おばさん、私が行つて取つて來ますよ、私は道をよく知つていますから、ね、そうして、あの娘は菓子が大好なのだから。

それでは、いつて御出で、轉ばない樣に、氣をお付け、氷が張つて居るから。

此日は、まことに鬱陶しひ日で、霧は深いし、天氣は塞ゐし、途は氷つて居るし、外出するには極わるい日でしたが、富は

一一

何んとも思はないで、菓子屋へ行き、兩手に菓子袋を拘へて急ぎ足で家の方へと參りました。すると、どうした事やら、霧がだん／＼深くなりまして、先きがちつとも見えない樣になりました。然し、富はずん／＼あるいて行きますと、先日の雪どけの氷つた厚氷の上へ上りました。するりと、すべつて、倒れました。折惡く荷車が其處を通り掛て、今轉んだ子の上へのりかゝりました。コレハト、車挽がびくらして。車を引戻した時は、もう晩かつた。

叔母さんは、餘りの事にびつくらし、夢中になつて、今他の人が抱えて來て呉れた其子を、ながめて居りました。富はフト目をあき

「チヤ、是處はどこです。

と、かすかに云ひましたが、臺の上にならべてある御馳走、

「アヽそうでしたけ、叔母さん、みんなをよく遊ばしてやりましようね。

と苦しそうに云ひました………。急にかほ色が變りました。今迄の苦しみは何處へか去りました。なんと云ふ美しい顏だか、アヽ其目は、傍に立つ人の見えないものを見て居るようです。富はほゝ笑みました、まことに幸ひそうな笑をもつて打ちゑみました。その寂んとした部屋に、可愛ひ聲がなりひびきました。

「チツ母さん、今行きます。

此一言を遣して、終に、母の許へ行きました。

此後來部さんは、全く變つた人になりました。病める者、悲しむ者の慰手、幼けなき者の友となり、先きへ行つた其可愛ひ子供の手本にならひ、へりくだりたる、己を忘れたる女になりました。實にわたくし共は、アブラハムの如く、此來部さんの如く、知らずして天の使をもてなす事が。御坐ります。

次號には豫告せしもの〻一つ、妾が夫ビーチヨル氏と題せる、ビーチヨル夫人の文。並に、小說の理想派、と實際派と題する長論文。透谷隱士が以后擔當することとなりたる、小說書類の批評を揭載すべし

ヘンレー、サマーセツト女史の到來の日取は本號の女報内に於て見るべし。

問答

女學雜誌記者みどり氏に呈す

芝區二本榎元町　高曾根重左衛門

二月十三日發兌の貴社雜誌隨感欄内に婦人は献身者なりてふ見出を以てみどり氏は或人の今日日本に女性の献身者尠しと歎くを辨じて曰らくわれ日本の女性にのみ献身者尠しと信ぜず……却て是れ女性は献身者なり献身せざれば安ぜず愛せざれば止まず愛する者の爲に其生命をも惜ず献じて始めて樂む……又ウイラード孃のホーム論を借て婦人深衷の希望なりとし且現今婦人の事業献身の精神より發し居るもの多しと御辨護なさるゝ元より其職として大に宜し實に一の不可あるを見出し不申候。然る處小生も今日婦人社會に献身者尠きを大に慨歎罷在候者に御座候。みどり氏の辨護小生の胸に落ざるに候故不肖を忘れ愚考申上候間御掲載くだされ御婦人方の御目にかけ被下候はゞ幸甚々々。

今や輕佻其風を爲し浮薄其習を爲し實に人心危く道心是微にして道德上の危機とも可申時に候へば强ち女性に限らず男性にも献身者少し、日本に少し、殊に献身者を以て任ずるクリスチャン社會に少きを憂ふ。殊更に人種の改良とかホームの改良を以て自ら任ずる着實なる婦人にして却て献身の途を誤るもの多く見受られ候、是決して小生の僻眼には無之と確信致居候、抑も献身とは如何なる意味に候や、みどり氏は解すらく女性は天然の献身者なり愛するものゝ爲には其身も生命も喜で献げ或はホームを得るの相手に遇はゞ共に偕に其ホームの樂を得て始て安ずるものなり献身せざれば止ずと。乍併献身とは果して只葛蘿の松も荆蕀も撰ばず纏ふて千歳の契を爲さんとする如きものをのみ申可候や、献身とは謂所犧牲献身などとつゞけて申す言葉にて正義の爲め公德の爲め自ら奮て其身を犧牲とし千辛万苦備さに甞めて飴よりも甘しとし改良家或は改革者たるの資格を耻しむるとなく身親ら履行して其位置に達し後進者の先導者たらざる可らざる者と存じ候只柳の風に靡き蝶の花に戯むるゝが如く己が愛する者を求めては之にすがりつき牽牛花的の榮華に誇りホームを探り得ては室咲花のうつらひ易きが如く邯鄲の夢一炊の未だ熟せざるに覺めて己が献身の誤れるを嘆つも謂所流水は其源に歸らず後

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

悔は前に立ずとあきらむる如き是れ果して献身の献身たる意味に適はしきものに有之候や、みどり氏の解によれば是れ愛するもの丶爲に其身命を献げホームの爲に其身命を献じたる眞の献身者と申して聊か差支無之樣に考られ候。然れども己が愛するもの丶爲には其主義を放棄し或はクリスチヤンにして其信仰を止め或はホームを爲んとて其相手の好意を害せざらんとを慮り献身の心よりかは知らざれども聖書を焚きて煙草を燻らし團々珍聞の都々逸を讃美歌に代用し團欒の樂を爲しつ丶ある者又是より爲さんとしつ丶あるもの現に二年を出ざるに小生が管見の裡に現じ來れるもの四五名の多に至る此等の人々は元より高等ならずも中等以上の智育德育を兼ね授けられ教師の膝下に居るや信仰堅固品性高潔の淑女なりしも一旦献身的の事業に取りかゝらんとするに當りては豹然一變して平生の理想は淀に浮ぶうたかたと消て汚穢猥褻のホームに献身し輕躁浮薄の良人と契老の樂を取るに至ては實に言語同斷のことに御座候、みどり氏の解に由れば如此き御婦方をも献身者と賞嘆せざるを得ざるとかと思はれ申候、女性の愛は實に愛せざるにあり献身は其性也ホームを求るは深衷の希望なりと、解し得て大に宜し。併し乍誰彼の撰擇なく其理想信仰主義をも打捨(みどり氏之を眞の献身と云乎)て何か愛するもの丶爲には身命を惜ず献くる女性の多きを小生は甚だ喜び不申候、自ら改革者改良者を以て任じ正義公道を重じ敬神愛國敬虔者の母たらんとて其夫に耦ひ夫もし適はしからずば善に導き其ホームをも良に改めんとて其身を献ぐる精神の暖き女性の思の外に少きは實に浩歎の至に不堪候。みどり氏の我田水引的の辨護甚だ滿足するを得ずと一筆申上候間貴重の餘白をも惜み給はず御掲載被下御婦人方の御注意の種子とも相成候は丶大幸の至りに奉存候頓首。

右の質問者は實際三四の事實を目擊し心中慨然大ひに激する所ろのものありて此言を寄せ玉へるが如し。われも亦同じきほどの慨歎なきにしもあらず。左れど眼を放つて大觀せば、目下眞とに献身する人果して何處にありや。名の聞ゆるなく、人の見ることなく、直接一身の利あるなくして、而して在らん限り力を盡し、他の爲め敢て犧牲たるもの、遂に女性に求むるの外あるべからず。われも、今の婦人皆然りと言ふにはあらず、方今の日本、比

較的、男子に見ると最とも少なくして、女性に見ると極めて多きとを言へるのみ。而して女性の中、當世の敎育を受たる女學生に於て反つて意外に少なきは、君に歎を同ふす、是れ方今の女子敎育者が敎導の誤まれるに由る耳。わが前日の論は太要下の如し、女性は生れ乍ら献身的の精神に優れり而して其の一生の事業多くは献身的也と。多少二三の取除はありと云とも、余は尙ほ此確信を有す。敢て吾田に水を引くの心にはあらず、眞とに若く信ずる也。君試みに方今の日本に一人の献身男子を見出さんとせよ、廣く覓めて辛くも之を見當るに先だち、既に戶內隣房に沈々として聞えざる然し乍ら天に於ては眞との犧牲たる多くの献身婦人あるを見んとす。前年女學子、「無名の英雄、戶內の戰死」三篇を公けにせり、余は今に至ると尙ほ之を唱し、且つ之を信ずるもの也。みどり、謹しみて答ふ。

誰か見ざる所に善を爲す、君子は屋漏にも恥づさか。

雜錄

近縣の所謂る酌婦

本社が知れる或人の許に、一個の老女雇われ働らく。其娘、砂山さくと云へるもの、去年、父母の貧なるに助けせんとて、千葉縣下鶴舞と云ふ所ろに奉公す。預て、慶安の言ふ所ろを聞けば、奉公先は、茶屋にて、酌婦と云ふものとなるにあり、前借若干にて住込み、酒客の貰ひ溜にて之を辨償するの定めと云ふ。斯て、去年秋東京本所相生町四丁目四十二番地受宿下河屋たき方の周旋にて、前借十一圓を以て、上總國鶴舞町石川淸吉方に奉公す。證文には、純然たる酌婦とあり、且決して他に奉公替などさせずとある也。然るに、所云る酌婦とは、多く怪しからぬ密業を爲すものにて、而も之をせては主人の苛酷なる取扱を蒙むると云ふ。右さく女は此樣を見て喫驚し、其取扱を受けて痛悲に堪へず、遂に書を母の許に送り、訴たへたり。父母は大ひに驚ろき、早々金を人に托して迎ひに遣はせしに、故障を言立られ、及びがたし、然し乍ら金は遣ひ無したりと稱して、其人歸り來れり。第二の書來り

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ていよ〳〵悲みを訴ふるにぞ此度は、父なる人辛くも幾分の金を調へて行き、近邊の或飯屋に娘を召び出して打かたらひ居たるに、石川淸吉（茶屋の主人）は雇女脫走したりと出訴し、其家に寄宿する巡査某を賴みて、之を拘らへ、無筆の父を强ひて謝罪狀を書かせたり、無筆にて書く能はずと云ふにぞ、巡査某自から筆を取て左の如く認たり、

……私意得違より貴殿へ借用金償還致さず本人連れ歸らんと計り既に逃走せんとせしを覺知せられ取押へられ候段實に申譯無之然るに角列の御勸辨を成下候義難有存候就ては今后貴殿へ借用金御返却申ざる内は決して本人連行等は勿倫万一本人に於て失踪致候と有之候節は費用は一切私にて相償ひ御迷惑相掛け申間敷尙又本人勤方宜からざる節は何時他へ雇換被成候共一切苦情申間敷……

此文に强いて爪印せしめたり。斯て父は又すご〳〵として歸りたり。暫くして、彼女は同縣下與津の尾川甚藏方に雇換とせられぬ。此談話を聞き、吾社の藤井米八郎氏は奮つて其救濟に當らんと申出られ、去月末出發し先づ彼慶安に掛合ひ、酌婦たるの外、他事なかりしとを確かめ、次に千葉縣警察署に出でゝ、問合せたるに所云る茶屋の弊害は滔々として防ぎがたく、ほとんど迷惑至極に感ぜらるゝのみの躰たらくありしかば、雪を侵して其まゝ、鶴舞に行き、石川淸吉の妻に掛合ひたり。元來成べく德義上より說聞かせ、止を得ざる時は法律の力を假るべしとの決心なりしかば、先づ諄々として說得したり。妻は一種の惡婦にて、「法律上にて掛合ひ玉へ、左らば逃げ路はとく用意しあり」と言はん斗りの顏付なりしが談判反つて其裏に出でたるに不審し、且つ困り果てたる樣子なりしが、何分、家風に合はざるゆへ（家風の語注意すべし、笑ふに堪へたり、痛むに堪たり）與津に轉ぜしめたり、もはや致方なし先方にて掛合ひ玉へと云ふ、其近邊の有樣を見るに、茶屋醜業酌婦の曖昧はほとんど押しなべての景況なり、大方の女はみな最初は酌のみと心得て來り、初めは驚ろき、中ごろは困り、遂に三四ヶ月のうちに惡風に染り、恬として恥ぢず、生れ付き當然の營業の如くに汚らはしき需めに應ずとぞ。之が爲め初め一圓五十錢の前借にて來りしもの、遂に十年間奉公せしもあり、小松本と云ふ茶屋の老主人は、既に七百人の酌婦を手に掛け其中より十三人を懲役に入れたりそ

得意に談し居るの狀態なりとぞ。

藤井氏は直ちに興津に到り、尾川甚藏と云ふ、右さく女の轉じたる茶屋の主人に面し、例の如く說き聞せしに、些さか情理に伏せしと見へ、前借金十圓にてありしを、六圓に負けて證文を卷返したれば、藤井氏は、さく女を連歸り、其母の手に渡したり。

此間の經歷を聞き、つら〳〵其消息を考ふるに、彼輩は法律上にてあらゆる逃げ道を用意し置き、裁判沙汰にて全勝の見込みを以て取掛り居れり。故に、從來二三人之を訴たへたるものもありしよしなるが、判事も致し方なく義人を負とし、いよ〳〵凶惡者の猛炎を强くせしめたりとぞ。

左れど奇怪あるは、彼の巡査某なり。加之警察署の取締も宜しきを得たりと云ふ可らず、吾黨論者は大ひに人心を警醒し、姦淫の空氣を一掃するに盡力せざる可らず。

借金を返さゝる時は、民事裁判所に訴ふるとを得べし、左れど人身を抑留するとを得ず。然るに、今日、娼妓が、其醜業を嫌つて貸坐敷を離るゝを抑留するのみか、巡査警部迄が之に說諭して、元の惡所に立返らしめんとするは驚ろくべきとにあらずや。酌婦の立去るを留むるも亦之に類す。內務大臣は、如此き人身賣買にまぎらわしき所置を放任すべからず。輿論は如此き奴隸營業に似つかわしき所行を放任すべからず。

此度の一經驗にて、吾社はます〳〵廢娼の必要を感じ、且つ惡人原の手立をさぐりたり、天下廢娼論同志者の驥尾に附して、いよ〳〵此事に一介の力を盡さんとを期す。

藤井氏歸社の後ち、右酌婦の事より起る弊害にて、痛歎に堪へずと感ぜらるる條々を談ずらく、

酌婦となる女子及び其親は多くは無學者にて一丁字を知らず、先方の勝手次第に證文を作らるゝ事○酌婦たらんとする者は、皆な慶安の甘言に乘せられ、纔に二三ヶ月にて前借を返し得べしと欺かるゝ事○酌婦は給金一ヶ月廿五錢、食物は澤庵か鮭一切れなり、干物一枚余計に食すとも其代を拂はせらるゝ事○酌婦となりしものは不正の業を爲さずば到底其前借金を返す能はざる事○酌婦の末路は大抵娼妓となる事。

活ける寢籠（押韻）

紫菀山人　作

春とは言へど　日を淺み
梅はわらへど　風さむみ
唯だ間ぬくめの　其のあたり
のどけき春の　ホームなり
夫は片邊に　筆とめて
蓋を弓手に　石炭をめて
妻はおさなご　ゆら〳〵と
かいなの寢籠　ゆら〳〵おと
母のむねこそ　堡なれ
其かいなこそ　鎧なれ
安き眠りに　すや〳〵と
つけは微かに　いびきのおと
寢籠はしづか　おさまれは
唇何時か　頬につけは
うつら〳〵と　笑み出でぬ
子はふた月と　廿日を經ぬ
握りし此手　のばすあし
天織りて　地もせまし
笑へば乾坤　風おこる
眠れは鬼神　夢に入る
花の色香も　此かほに
世界の富も　此笑みに
いかに我背子　これを見ね
なれが幼な子　接吻しね。

疱瘡の話（上）

種痘發明者紀念碑建設發起人　牛田友質

我國疱瘡の始は聖武天皇の御宇新羅より傳來し其病勢の猛惡なる立所に蔓延して夥敷人命を害し猶病毒を逞くし千萬年餘は年々歳々流行し後には殆んど丁年に達する迄には冐されざるもの無く終に小兒の大惡疫病と稱せらるゝに至れり今天保年度より弘化年代に至る疱瘡流行の有樣を記さんとす抑も疱瘡の經過を序病出揃水膿本膿瘦等何れも三日ッヽ都合十五日を以て初て恢復期に至るものと定たれども老輩の覺知實際は順痘（規則通り經過して恢復するを順痘と稱し其の當時は疱瘡

者を訪問すると第一に、御痘瘡にして結構の至との言葉を發せり）に落顆する者甚だ稀にして亭病の熱發の爲にひきつけたるまゝひらかずして死に陷り或は出揃の時堪兼て命を失ふもあり本膿に至れば輕き症にても其樣唐黍の皮をむきたる如く中以上重きは膿みさかりに至れば總身地腫して眼口閉塞り恰も「レプラ」病者の如く中には衣服の身躰に張付を厭ひ天花粉又は温飩粉等振りかけ辛して之を凌ぐもあり温氣時には蛔蛆生へるもあり瘦に至て虱を生じ瘡蓋を動かす等目も當てられぬ有樣にして實に其當時を追想すれば今尙全身粟を生ずるの感あり加斯き大煩なれは爲めに腦力を乏くなし智鈍となりたるもあり或は手足ひきづり其儘癒着して生涯不具者となりたる例も亦少なからず左迄になくとも最愛の子孫等美麗なる容姿も之れが爲めにはたちまち可厭醜顏に變じ痘痕黒白畫筆に及び難し　昔時の風習として或部分に行はれし幼時男女配偶を定め置きし輩の多きが中には之れが爲めに往々不和を來すもあり）甚しきに至ては爲に兩眼潰れ盲人となりたるなど其慘狀得も言はれず之れが看病者の困難を極めし事亦一通ならざりし實に可恐又最可惡病症と云ふべし故に父母たるもの子供の產るゝ中第一着に之を心配して神に禱り佛を念じ加持祈禱咒咀等樣々手を盡せり然ども眞の豫防法なきが爲め勞する者効なく是非一度は人性の不免病症とはなれり然るに英國に於てEdward Jenner氏この最も恐るべき疱瘡を豫防する一大良法を發見し世に公にするに至れり

エドワードジエンナール氏は西曆千七百四十九年（寬延二年）五月十七日英國グルスターのへルクーに生れ成長の後グルストルサドヒユクの醫に就て脩行中或日一村女來り己の病症を問ふ師匠診察して痘瘡なりとす村女言ひける我れ嘗て牛痘に感じたることあれは天然の疱瘡にはあらざるべしと此時ジエンナール氏傍らに在りしがふと胸に浮ぶ樣我れ曩に牛乳を搾る女供の中には間々牛痘（牛疱瘡）に傳染するものありしと聞きしが今又此村女の答ふる所と云ひ彼是れ考れは或は牛痘を人躰に接種して彼の可恐天然痘を防ぐ事を得るにはあらざるやとの觀念を起せり之れ實に今日行るゝ完全無缺の種痘法の胚胎せし初也爾來日夜思を焦し或時同僚に語りけれは大に嘲を受けし而巳ならず如斯き賤女の說を信ずる輩は速に社中

を放逐せよと迄罵られ遂に其說は容れられざりし其後千七百七十年倫敦に於てどくとる、ジヨンハンター氏に就て修學中猶牛痘說を述べければさすが大家のハンター氏其識見の卓絶なる大にジエンナール氏の說を賞賛せり茲にゼンナール氏彌力を得郷里に歸り忍耐辛苦經驗すると廿餘年一日の如く終に確然たる良成蹟を得千七百九十六年(寛政八年)五月十四日を以て始て第一回の種痘を己の最愛兒に試むに至れり時に氏の母及妻等容易に肯ぜざりしも遂に說破して接種を遂げ頗る好結果を得益々進みて千七百九十八年(寛政十年)種痘を爲したるもの天然痘何程流行するも決して之れに冒かさるべきものに非ずとの廿三案を載せたる書を公にせり又倫敦の都府に出で此法を傳へんとせり然るに誰一人贊成するものなく醫師社會すら尚ほ其說を採擧るものなく却てゼンナーは牛の乳袋の病を人に接種して人獸同一にすると批難を蒙るに至れり又說をなすものあり曰く種痘をなしたる小兒は次第に顏形牛に似其聲恰も牛の吼る如し其種痘の發する形これ即ち牛の角の生へる徵候なりと茲に於てゼンナー氏は止むなく空敷又郷里に歸りぬ或時ゼンナー氏近村の紳士の兒に種痘を行ひしかば其兒門外に出ると人惡しざまに言ひはやし之に石瓦を投じ室内へ追込たりとぞ斯る程なれば此當時は容易に行はるべやうも見えざりしが其後貴婦人タレー及伯爵夫人パータリーの兩氏來りて其兒達に接種を乞ひしかば之れより世人眠覺し如く感じ續々接種を乞ふもの出で來り專ら行はるゝこととなりたり千八百〇貳年英國政府は國會の決議を經て一万磅千八百〇七年全斷貳万磅合金三万磅の賞金を賜りたりゼンナー氏老後には歐米文明の各國皆相爭て此法を行ふに至りしと聞き大に喜びたりと尋て千八百廿三年(文政六年)一月廿六日享年七十三年九月にして沒す時に各國より其功德を慕ひ恵主と云ふ尊號を贈れり千八百五十八年(安政五年)倫敦に紀念碑建造の擧有り又聞く米國醫學會は其千八百九十六年五月十四日を以て氏の百年祭を執行せん爲め委員を組織し其準備に着手せり而して歐洲よりも許多の同意者を得て紐育或は華盛頓に催す筈なりと

(以上ゼンナー氏畧傳はスマイルス、セルフヘルプ、外二三の書に據る)

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

批評

○天下の實業家諸君に告ぐ

福島縣の蠶業熱心家、半谷淸壽氏、去月十五日の總選擧の爲に、題號の如き書を著はす、其目的の日既に去つて遠しと雖ども、著者が慷慨憂國の情は之を紀念せざる可らず、但だ熱情度に過ぎて、冷斷靜考に欠く所あるが如し、所論の主旨に至つては、一々服しがたしといへども、今の僞稱實業家多き世にあたり、かゝる實際の實業家にして而して國事を憂ふるの切なる人あり、祝すべきもの也。

○回天

前田父子の主管にて、關巖二郎氏の編輯に成れる「回天」は、出色の雜誌なり、かゝる見應へあるは、近ごろ紛々たる紙片多き中に稀に見る所ろなり、編者の苦心想ふべき也。其附錄條約改正論の事は前に言ひぬ、第三號、副島伯の「國貴自立」の說の如き、堂々たる古豪傑の秀論なり、云く、若しも彼が禍心を長ぜば何れの人か敵人にあらざる、若しも國に在て重門擊拆の備なくんば何の讎か入る可らざらんと。敬重す。

一覽

○奇姓錄

奇姓は今の世にも尠なからず現に三百の議員中にも達寶谷、百萬等の姓あるを見ても知るべし然れども是れ未だ奇姓と爲すに足らず之を古に溫ぬるに實に左の如き者あり（朝野新聞）

南淵	一宮善	門人	堺和	新善	西大音	八朔
背評	都甲	等力	問叶	福富	井石	北向
大角象	息耳	小車梅	小柳筒	生實	十二神	邉分
老馬	廄殖	多門	十八女	神三郡	神主	神足
戒重	春遂	歌枕	門眞	門澤	鹿伏兎	印牧
依網	依藤	丁子	田參股	日々	小島遊	曾雌
反町	根子	子々々	納所	八道	人首	浮穴
生形	有動	野一色	四月朔日	十七夜月		

○慶應義塾出身の衆議院議員

府下芝區三田二丁目の慶應義塾に在學したる事ありし人々の中にて此度衆議院議員當撰したるは左の諸氏なりと云ふ（時事新報）

菊地九郎	坪田繁	廣瀬貞文	加藤六藏
藤田茂吉	中澤彦吉	渡邊洪基	鹽路彦左衛門
牛塲卓造	尾崎行雄	加藤政之助	角利助
高須峰藏	犬養毅	箕浦勝人	井上角五郎
外山脩造	村松龜一郎	柏田盛文	兒玉仲兒
橋本太大郎	安岡雄吉		

○見出

●三月一日發兌法學協會雜誌第十卷の第三號に、加藤弘之氏の「道德と法律」の說あり。二月廿九日の「大日本」第三號に、衝突表と稱し、新撰各代議士の黨派別に付き、國民、每日、日々、改進、中央、自由の六新聞が鑒定する所ろ各衝突する者を一表にせり。三月一日より每日新聞は、新撰議員の鉛版寫眞を入れ初めたり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

寄書

女子にして醫を學ばんとする人々に告ぐ

本郷龍岡町二十二番地生。

吾國學術の進歩は云ふ迄もなしかゝる中にも殊に醫學は吾國文明の先導者として最も長足の進歩をなし今日に至ては婦人にして醫を學ばんとする人々さへ出て來れり誠に祝すべきの至りにこそされは婦人にして學問界の人となり教育に衛生に慈善に盡力せらるゝ事此上なく喜ばしき事にして婦人にして成し得らるゝ限りは及ぶ丈範圍を擴めて働かれん事希望の至りなりさはあれ茲に一の疑團こそ起れり开は婦人にして醫師となる事果して策の得たる者なりや否との問題なり

大凡醫とならん者通例五六年の星霜を要す而して其學問たる暗記に專らにして趣味と云ふ者更に少なく故に精神を煩はす事他の學問に比して幾倍ぞ況して繊弱の少女にして多年の辛勞に堪ゆる事其躰育の點に於て如何あるべきか今日の女學生を見る大抵半病人に似たる者ある又理由なくんはあらず

第一に考ふべきは卒業後の働きなり諸姉は必ず天晴なる運動をなさんとする者なるべしされと如何せん今日の有様にては女醫なる者未た世に知られて隨て其信用も亦極て薄く是を下等人民に問へば曰く（へー女醫者なんぞが世にありますか）と又是れを上等の婦人に問へは曰く（死んでも女醫にかゝるはいやなり如何にも危嶮に思ふ）と其冷淡なる此の如しこは少しく誣蔑したる言に似たれど實際世間の人々が女醫に對するの思想は此の如しされはにや數年前に卒業したる女醫にして今日に至るも門前寥寒たる者少しも怪む事なきなり勿論文明國に於ては立派なる女醫多くありて堂々門戸を張る者ありと聞けは將來吾國文化の度愈々進みたらん日には必す其流行を見るべきも开は今日の婦人に望むべき事にあらす數年の苦學數百の學資金其出入相償はさる實に不得策の甚しき者にはあらさるか予輩は學問をして商業的にせよとは望まされ共金錢と云ふ者自然に湧き出つる者にあらさる限りは又一考すべき事を思ふ也

世人或は云ふ婦人科小兒科は女醫最も適當なりとさもあらん予輩と雖敢て不可なりとは云はすされとも若し各々其長所のみ取るときは決して棄る所ある者なし古諺にも世に棄方なしとは是等をは云ひたるならんかされとも男子にまさると云に至ては未可なり尤も男子にはあら〳〵しき所多かるべきも是れ決して短所にあらす却て其内に云ふ可からさる無限の長所あらん殊に外科手術の如きに至ては婦人の手腕には到底及ぶ能はさるは吾も人も許す所なり亦男子と雖其やさしく丁寧にして婦人小兒の取扱に慣れたるの專門家世間其の例少なからす諸姉が僅に婦人科小兒科位の望を以て醫となる者あらは誤りも亦た甚しと云ふ可し世間には婦人科小兒科を以て專門とせる高名家あれば別に不可なきが如き樣なれどもこは男子と雖僅に或る二三の人々のみにもして其數多きにあらす亦た尋常一樣の開業醫の企て及ぶ可き者にあらす然るに女醫たらんと志す者は皆盡く婦人科小兒科の專門家たらんとするの意氣込あるに於ては女醫の門前は后來如何なる觀を呈すべきか見まほしき事なり

續て思ひ起すは家政の一事なり婦人と生るゝ者何時しか一度は妻となり母とならさる可らす其妻たる者母たる者朝より夕に至る迄患者に接し其家に回診し寸時も家庭を顧みるの暇なき折柄夫は營々として汗を流し寒風に曝され吾家に歸り來るも笑て之を迎ふるの人なく衣を溫めて之を待つの人なくんは其家庭の無味如何ばかりぞ時としては三更人定まりて遠く吠ゆる犬の聲のみ聞ゆるの暗夜啼く兒をすてゝも患者の需めに應ぜさるを得ずまして家庭教育なそとは思ひもよらぬ事なり予輩は婦人たる者は人の妻母たるべき者なるが故に醫となる可らずとは云はされども后にも重て述るが如く若し他に適當の仕事あらは殊更に醫とならすとも可ならくと云ふ意なり此の家政の一段は先年或る女醫の實際物語られし事にして諸姉も定めて御承知ならんと思ふなり

前述の事柄に付ては尚ほ實例を引て細かに述んとは思へ共斯くては或る人々の身の上にも及はんかと思ひて止みたり諸姉よ現在卒業し居らるゝ人々の有樣に付て見られよ必すや思ひ半ばに過くる者あらん斯く云へはとて予は今日の婦人をして學問を爲すべからすと云ふにはあらすして及ぶ丈は世間の婦人をして學者たらしめ賢母たらしめん事を祈る者なれども獨り醫學と云へる一科の學問に於ては飽く迄て婦人の手に任せさるこそ却て今日の文化を裨補する者なりと信ずるなり

人各々天職あり是れ其人々の資性より出る處にして決して動かす能はさる者なり故に予の考ふる處は婦人にして醫となる者果して天職を全ふし得たる者なりや否と云ふ事なり然らは何者が最も婦人の資性に適當なる事業なるかと云はゝ予は斷して云はん教育家なりと婦人の教育家たるに適當なる事は女學記者既に論し盡して餘りあり再び茲に述るを要せさるべし單に教育と云はゝ或る意味よりして其位置或は女醫より劣る樣に覺えて諸姉の滿足せさるやも知らされど決して左にあらす眞正の教育家なる者は其責任極めて名譽に綱する事も亦大なり世に人性を教養する程愉快なる者はあらし吾人は婦人の眞正教育家を待つ事久し殊に今日女子教育の普及せさる女權の擴張せさる可らさる己か頭上の蠅を拂ふへき者極めて多し何を苦んて迂遠の迷路に入り女醫となるの必要あるか其他婦人として爲すへきの事業定めて多からん藥劑師となり産婆となり看病婦となる亦宜なり是等は婦人獨得の妙技と云ふも可ならんか尚婦人の職務を入るゝの餘地極めて多からんも今一々是れを擧くるに違なし各々適當の業を擇んて可なり

斯く述へ來れは長たらしき樣なれ共概括せは實に一言に過きす即ち婦人にして不適當なる醫學に從事せんよりは他に得意なる事業充分なれは是に向て行くべしとの事なり予か濟生學舍の門を過き日々三四十の女生か出入するを見東京醫學院の側に婦人の下宿樓上に恬然たるを見る每に醫術開業受驗人の成蹟を見て二三婦人か及第する者ある每に吾國現在の有樣を考へ併せて諸姉の將來を思ひて轉たゝ感慨に堪へさる者あり既に卒業したる人々は如何ともし詮方なし望むらくは今より醫とならんと志さるゝ諸姉よ少しく願みる處あらは幸なり。

女學子評。不幸にして此の信切篤實なる寄書家の說に全然同意するはかたし。左れど其注意に至ては立志者が一應省み謹聽すへきもの也。諸君尚ほ本號女報欄內、女醫に關する二新報を參着せよ。

時事

○伊藤伯の辭職

伯が例の慣手段ありといへど、前年大隈伯が條約改正事業中止の折に鑑みて、兎に角に一大波瀾の風となることを確かに認識す。一品一評は此際國家の用を爲さず、吾人は寧ろ時事翁に同ぜんことを欲す。即はち、之によりて連合内閣を造るの階梯とならば幸甚也。ジョンソン曰く、そねみは、自己に利あらんことを必要とせず、敵を落し其地位の下るを見ることを要すと。伊藤伯が落下は、遂に敵と見し人を同伴して共に上天するの績とはならざる乎。吾人は之を望むもの也。

○勝伯を慶し且弔す

中夜慨歎の念禁ずべらかず、丈夫の涙すでに邦家の爲に涸れんとす、而して尙ほ伯をして、更に家事の爲に痛哭せしむ。後學深く之を弔す。幸にして、伯が舊主其分身を寄せて、長久に勝家の祭に典せしむ、後學深く之を慶す。夫れ、明治の世、何んぞ必らずしも幕政に戀るものゝみあらんや、德川氏名臣多し、後學今に鑑みて坐ろに之を祝す。

女報

あい子編

●女子師範學校行啓　皇后陛下には、例年の通り來月初め女子師範學校へ行啓あらせらるべきに付き右行啓相濟む迄は旅行を見合すべき旨、校長より教授の人々へ諭示したり。

●皇后陛下の御齒治療　侍醫岡山紀齋氏は過日來、宮内省に出頭して、皇后陛下御齒治療の御用を承り居りしが、右施術法は從來我國に行はれざる頗る精巧のものなる由にて、頃日一先づ御治療濟みとなりたる趣。

●獨逸皇帝皇后日本慈善展覽會に臨ませらる　獨逸に於てシーボルト男爵等が發起となり我國の震災救助の爲めに展覽會を催ほせる事は既に前號に記せしが、近着の英字新聞を見れば獨逸皇帝皇后兩陛下にも去月十五日同會へ親臨せさせ給ふべき旨仰出されたりと云ふ。

●英國皇族の發病（二月廿六日倫敦發。）　コンノート公の妃は、輕症肺炎に罹れり。

●西鄕南洲翁未亡人　今度令息菊次郎氏と共に遙々上京を思ひ立ち、去る廿四日は沼津なる從道伯の別莊に一泊し、伯爵夫人仝道にて去る廿五日夕着京三年町の邸に投宿せしよし、未亡人は南洲翁數年の在京中一度も上京せし事なく今回が初めてなりと云ふ。

●流石南洲夫人　篠原國幹氏の令嗣は業平橋警察署にあり、村田新八氏の令嗣は麴町警察署にあり、其他桐野利秋氏の養子と云ひ、鹿兒島名士の後胤湮滅して世に顯はれざるもの多し、南洲翁未亡人今度上京するや信を同鄕貴顯へ發せず、只右等舊交の人にのみ出京を報じたりと云ふ。

●木戶侯爵夫人の饗宴　木戶侯爵夫人は、去る廿七日各大臣の夫人を自邸へ招き饗宴を開かるゝよし。

●田中夫人　田中子爵夫人は先頃來病氣の爲め、神奈川縣久良岐郡富岡の別莊に引籠り居られしが、稍快方に赴きたるを以て十日頃歸京せらる。

●自刃して良人の變節を責む　長野縣埴科郡大字中村の資産家飯島喜左衞門なる人は、同縣第三區衆議院議員選擧の際、村内有權者一同と協議の上堀内賢郎氏を再選するに決し之れを贊成したるが、爾來此約に背き他候補者に投票せんとの色ありしより、其妻某は之が不可を唱へ良人の變節は吾が家の祖先を辱かしむるのみならず政治上の德義を失ふものなれば、是非に自由黨員たる前代議士堀内賢郎氏を選擧せられてよと、諫言數日に及びたるも、去る十四日に至り良人は愈々佐藤八郎右衞門氏（同じく自由黨員なりとて）を選擧すべしと斷言し、其の諫言を入れざりしより、其夕遂に苦慮の餘り肺炎を引起したり、去れば一家の者も驚きつ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

いろ〳〵さ堀內氏に投票せしめんさ諷しければ、稍や承諾の摸樣にて打過ぎ、其後十七日の開票報告に、喜左衛門さんは到頭佐藤さんに投票しましたさ、聞くや、妻は遺憾遣る方なく、暫し血の涙に咽びしが、今更愚痴を云ふも詮なしさ覺悟やしたりけん、其夜九時頃常夜を脫し更らに白衣を着て、土藏の裡に入り怨を呑みつゝ劍に伏して見事自害してけり、此報の郡中に傳はるや、その操節を賞賛し、且つ其の死を悲しむもの多く、現に埴料俱樂部員は、之れが墓前に祭祀文を呈せんさ計るもありしさ云ふ。

●やまさの花　今回吉田一作氏の發起にて成美社より題號の書を發行する由、これは江湖貴顯紳士の夫人令孃の履歷さ肖像を取り集めたるものにして、趣意書によれば普く貴婦人諸氏の淑德を世に發揮せんさの目論見なりさいふ。

●女學生の上京　常市小田切謙明氏の長女浦野子は、豫て高等女子師範學校へ入學を志願したるが、今度許可の通知を得たれば去る廿五日上京入校したりと云ふ。

●女子高等師範學校への及第者　本年東京府高等女學校生徒中女子高等師範學校の生徒募集に應じ入學試驗に及第せしは種村ゆき、美濃部らくの兩人なり。

●女學校生徒募集　東京府高等女學校にては、此度一年級幷に新設の專修科生を募集す。

●府下公立小學女敎師の數　訓導九十九人授業生七十四人なり。

●婦人共立育兒會　同會は日を追ふて盛大に赴き、施療病兒も大に其數を增し、又た諸般の事務も整頓せしかば、此度有栖川威仁親王御息所を同會の總裁に推戴し、鍋島侯爵夫人を會長さし、去る廿三日會長幹事の集會を開きたり、同會には昨今貴婦人の入會續々あり、慈善金も漸次其額を增加したれば、貧困の病兒は幹事の照會さへ得れば何時にても醫科大學病院へ入院を許され施療を受くるとを得る由なり。

●東京慈愛病院　今回貴顯伸士の賛助に依りて牛込區東五軒町に設立したる東京慈愛病院にては、貧困患者救濟の業を擴張せんが爲め規則を定め診察料は總て無料さし、藥價は普通藥價の半額さし、極貧者には施療なし又た醫藥配達夫を置き藥品の品數に拘はらず一匙一錢の割を以て送達するとになりたりさ云ふ。

●共立女子職業學校の榮譽　同校は、曩きに皇室より製作品御買上の榮を蒙り、其後再び同校製作品を天覽に供すべき御沙汰を蒙り、去二十六日を以て、一百六十餘點の製作品を天覽に供せしに、其中過半代價(八十餘圓)御買上に相成りたりさ、因に記す、同校にては去月十日限り造花科の校費生を募りしが、尙二十餘名位の入校を許す筈なりさ。

●英和女學校　本市上流川町なる私立英和女學校は燒失以來久しく建築に取掛らざしが此程より全工事に着手したり。(藝備日々新聞)

●濟流女學校の講話會　名古屋濟律女學校にては去日午後三時より例月の講話會あり、名古屋郵便電信局長土居通豫氏が講師さして出校して女學に關する所見を演ぶるさ云ふ。

●若松婦人會　數年前山岡夫人の當地を去られし後は之が主働者なく、誠に微々たる有樣なりしが、昨秋東夫人の來客ありしより規則を改正し役員を改撰し、稍面目を改めしが、爾來進々都合よく入會を申込者も多く着々進步の有樣を呈するに至れり、去月十九日には例會を開きドクトル渡邊鼎氏を聘して演說を爲せしが六十餘名の來會者ありて近來稀なる盛なりし、向後に時々名士を聘して講演を催ふす筈なり。

●婦人會演說　眞宗僧侶の發起にて京都に婦人淑德會さ云ふを起さんさ計畫中の由なるが、去る二十三日午後七時頃より新京極常盤座に於て同會設立の旨趣を世に公にせんが爲め婦人演說會を開けり、先づ武田大翁氏開會の趣意を述べ次で星貫一氏(婦人海の新波瀾)山口穎造氏(歐化思想さ固有思想)林高子(婦人淑德會を設立する所以)演說し了りて閉會せしは九時過なりしさ當日は赤松連城師山口鶴子木村芳子等も演說する筈なりしも差支ありて出席せざりし由。

●臺町貸座敷幷に藝妓待合所の收入高　去る一月中臺町貸座屋十一戶にて捲り取りし收入高　總計金二千五百七十六圓二十六錢五厘內酒肴料千九百四十一圓四十四錢五厘、娼妓揚代六百圓三十錢、藝妓座料三十四圓五十二錢等にて此の遊客總員は二千〇〇一名なりさ又仝町藝妓待合所の藝妓六名にて線香料働高は九十四圓四十四錢なりさか。

●輕便藝妓の出稼　議員撰擧の競爭やら何やらにて困舍の春の殷しさ、此所の宴會彼所の饗應馬子茶屋の赤前垂の女中も到る處、歡迎優待さるゝさ云ふ始末、これは一番田舍に出稼ぎして猪口の中に毒氣を吹き込み置き田印先生方に財布の底の塵はたかせ、寒暑に堅めたる身體の骨も溶かし呉れんさ凄まじき謀畧を九尺二間の裏店の裡に運して勝ちな田舍茶屋の奧坐敷に決せんさて近頃甲府の褒めで云へば輕便藝妓惡るく云へば地獄連中には續々田舍に出稼へ赴くさ云ふ(山梨新聞)

女學雜誌愛讀諸君に申す女學雜誌一號より百號位までは殆んど欠號分多き位に候

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

外報

●日本婦人の賣買　日本領事はワシントン府シートルの地方廳へ日本婦人賣買を禁止するの補助を乞へり。陋惡なる目的の爲め賣られたる日本婦人の數シートルのみにて百五十人の多きあり猶此弊西北地方に愈々盛ならんとするの有様なり（ウーマンスマガジン）

●啓國救濟　クラヽ、バートン女夫は啓國へ救濟米を送るべき資金募集の爲め、弘く東方諸州の都府に訴へたり、

●結婚者に科金を課す。英國獨身青年倶樂部にては其が會員にして結婚するときは必らず同會に二十五磅の科金を出すとの定めなりしが晩近レデー、サラ、スペンサー、チャーチルと結婚せし近衞儀杖兵の一人なるウイルソン氏は、此奇態なる條例を斷行されし最後の者なりしと云ふ。因に記す、古今を通して公爵マルボロー家嬢等の多かるなかに、平民に嫁せしは此ウイルソン夫人を以て最初の者とす。されど此富豪なる舅父は他日貴族に列すべき人なりと云ふ。

●アベルデーン伯爵夫人、手編又は手織レース刺繡諸縫の織物毛糸細工等の、愛蘭土婦女子の手藝品を以て、一の慈善市を成し、彼等の職業を奬勵せんと企て設られたる愛蘭土職業會々長なる同夫人は、來らんとする世界大博覽會に出品準備の爲め、當今合衆國に在り。而して此目的を達せんが爲め、一万五千弗を募集中なりと云ふ。

●女醫師、は近來年々に世の信用を増し來りぬ、特に婦人患者には到底同性の方優れりと云ふに至りぬと。現に此事を最後に是認せしチストリアにても、近頃アンナ、ベーヤー女醫學士を、ボスニア州ドルヤッスラなる公立病院の政府醫員に擧ぐるに至りしと云ふ。女史又、男醫の治療に對し、宗教上の狐疑を抱ける婦人患者に、非常の惠果を能ふと云ふ。

●歷史的佳人逝く、嘗て美貌もて名あり、且ナポレチン三世の握手申出を否みしと云われける婦人の一人なる、ヘレヂ、サゴウスコ内親王殿下は、五十七歲を一期として、逝去せられぬ。嘗て那翁三世が其權勢も一時の榮華として消ゑ亡びかし時は、内親王が佛國の女皇たらざりし事も如何計り喜ばれけん、而して其名も世に知られざりける位階劣れる一人に、報を望まざる愛を歸しつゝ、未婚にして篤實なる一生を終りたりと云ふ。

●トルストイ伯、爲さんと欲して業なく、漸やくにして得たる働の報給は僅々一ヶ月に二シルリグ位にして、一人の身躰の疲勞をさへ支ゆるの食を得ざる迄に、窮したる魯西亞貧民の爲め、同伯はセント、ピータースベルグに程近き所に、多くの飮食店を設けられぬ。而して伯並に凡て同伯の補助者も、爰に食事を供にせらると云ふ。其他に設置せられたる多くの假屋は、寒氣を凌がんが爲め、他に熱を求むるの料盡き、其が家屋をも薪とし家なく流浪せる人々を、住はする爲なりと云ふ。

●レデー、ヘンリーサモルセット　同女史は去月四日モントリールよりシカゴに到着し、當今ムーデース聖書會の近傍に滯在せられ、常に女史が企望の事業の爲めに研究し且ツ其を盡さんが爲め裨補たるべしと思はる講義及諸々の運動等に盡力せられ居ると云ふ。而してウイラード女史幷に万品基督教婦人禁酒同盟會の常置員等にも面會し、傳道事業の資金を備ゑんが爲、ペンシルバニア洲のナリー、パークス。ホイーラー女史を其が主任とし、多くの助手を擧げて日本支那印度南部アフリカ等に送り、通信員は此等の事に尤も適宜且熱心と認められたる白標同盟會員に托する事に決せりと云ふ。ホイーラー夫人は、現今イリノイスに在り、夫人が方法の精細なる事は、近々發表せらるべしと云ふ。又女史は三月九日バンクーバー解纜のエムプレス、チフ、チャイナ號にて、日本に渡來せられ、大凡六週間の滯在の見込にして、其間に當地の矯風會の人々と此事業に關し出來得る丈の力を盡されると云ふ。同行は、女史が一子幷其が家内教師のみなりと云ふ。

●女醫の景況　合衆國の一醫科學校にして卒業し出たる女醫は、四百三十人あり、其内三百九十人は、當今實業に在りて、一年平均三千弗乃至二万弗迄の收入ありと云ふ。

●禽類保護會　徒らに身を飾らんとて思慮なく禽類を殺す事に甚たく反對して、一流の婦人團結し、題せる如き會を設けられしは、近頃の出來事なるが、此頃出されたる其が第一回報告には、更に左の如きとを記せり、曰く、ある野禽を獵せるを職業とする人の實話に、毎年一人にて少なくとも八千羽を獵獲せるに、本年に於て、毎年一人にて少なくとも八千を獵獲せるも需要なきが爲め、一羽の鷗又は海燕をも獵せざりきと。

●ボストン府なる幼兒保護會　にては愈々盛に此業を擴張し、今日にては、進んで貧兒を各家族に托する事に盡力中なりと。今定まりし者の様を記さんに、食料を拂ひ預けられしもの百十六人、食料に代ゆるに一の職業を爲し預けられしもの九十八人、給料を給せらるゝもの六十二人なり、他に既に引き受けんと爲せど家族ありて其需に應じ得ざる男兒六十三人は、同會附屬三ヶの看病者學校にあり。猶其他に彼等自身の家にありて、訪問者と交通して同會の保護を受け居る男女兒百九十三人あり。都府の各所に散在せる五十八ヶの家族書庫に在るもの五百六十人、同會附屬の諸會にあるもの五十人にして、總計一千一百六十七人の幼兒は、同會各支會より直接の同情深き保護を受けつゝあり。

●不德なる著述に對し佛國人の刑罸　エム、ロチエフチルド氏の機關新誌ある、イントランシジアントの編輯者は、道德上妨害たるべき件により、警視廳より二ヶ月の禁錮併に二千フランク（三百六十圓程）の科金を課せられたりと云ふ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○ブラッセル會議、正義と眞愛の礎に立たる基督教徒の國民よと、神の此世に呼び給へる御言葉ありさせば、更に之に應ふ處のものは當今の合衆國民なり。彼等が上には、憫みを乞はんさて叫べる大凡二十万の助なき人民は集ひ來れり、而して其憐民を第一に苦ましむる者は、奴隷賣買と飲酒にして、こを廢除されんさ云なり今ブラッセル條約は、大なる自由の處なりコンゴーより、此二大寃を斥けんさて、尤も注意行渡りたる條約を設け、國會の承認を得んさて、呈出せられぬ。猶歐米の强固ならんが爲め、諸强國の承認を乞ひ、大英國、佛蘭西、日耳曼、普西亞、匈牙利、墺亞太利、白耳義、西班牙、丁抹、以太利、葡萄牙、瑞典、ノルウエー、子ザランド、トルキー、ペルシア、ザンジバル等は、悉く之を承認せり。而して獨り基督教國なる合衆國は、此中に加はらざりしのみならず、其が停止を申出にける。嗚呼今に於て彼基督教國民の主なる者と唱へらるゝ者にして、此事あらんには、實に當世紀文明の指針は、盤上に逆廻の方針に向へりと云ざる可らず。蓋し之により反對の結果あらんを恐れてなり。此奴隷商并に飲酒賣買の爲め利金を得つゝある事は、非常の盛況なり。故に此二大敵の全く撲滅するの時來らずんば、彼の一千八百八十九年に於ける如き會議は、到底見る可らざるなり。禁酒事業に主に關したるものとして、吾人は多く飲酒の害のみ注意すれども、今之と同時に奴隷上の事にも均しき注意を要するの時なり。ジャッジラムバート、トリー氏は、一月發兌のフォーラムに記載して曰く、嘗てブラッセル會議に呈出せられたる證明の一として、國内の人口は、酒害の爲め多く減し且奴隷賣買の爲めには此迄耕し來りたる國内の大方を、古への未開の有様に復せしめぬと。實に當今奴隷に捕はれ又は買はれたる人々が、他國に移つる樣を見るに、其割合一人に付四人位は海岸に至る迄に、互に爭鬪しては殺され、又は死す。今奴隷の市場にて統計せる中、最下數にて一年八万人、之に先の如き樣にて死亡せるものを加へ四万人十位なり。

其數に至りては一日に一千人以上の斯かる不幸者を見るとあり。故に政府にても晩近六ヶ月は非常なる責任を負ひ、之が豫防に從事せりと云ふ、以上の暗膽なる景況に引かへて嘗てレビット夫人が記けるアフリカなる飲酒の及ぼせる害毒を、現世の人は彼の亞米利加人の如く、此墜落せる靈魂の重荷を我等が國に負はしめ、之に安んずべきや。義を重んじて此狀態を救はんと憤起するの徒は、來りて此條約を批進し、共力すべき事なる哉(ウーマンス、ジョウナル)。

品名	三月三日
白米(一円ニ付)	
一等米	一〇一(斗升合)
二等米	一〇二
三等米	一〇五
四等米	一〇八
五等米	一一四
正米(一円ニ付)	
越中米	一四七(斗升合)
肥後米	一三三
南部米	一五三
土浦米	一四一
岩代米	一四五
雜穀(一円ニ付)	
本貫大麥	二八〇(斗升合)
上州小麥	一六五
竹林麥	一八〇
梅澤大豆	二〇五
青柳大豆	一九六
吟小豆	一六二
白胡麻	一一八
黒胡麻	一四五
鹽(一円ニ付)	
赤穗	三、二〇(俵)
大鹽	三、三〇
本齋	五、三五
新齋	五、八〇
醬油(一円ニ付)	樽外屆 七內 七九 八七 一、一〇〇 一、三〇〇 一、六〇〇 一、八〇〇 二、〇〇〇 二、一〇〇 二、七〇〇
最上	
極上	
上物	
中物	
並物	
味噌(一円ニ付)	
地製上白	七、〇〇〇(貫)
同上赤	七、〇〇〇
同紅赤	四、三〇〇
眞綿(一個ニ付)	
上々入金	二一五、〇〇(圓)
上入金	一〇八、〇〇
並入金	一〇〇、〇〇
松入金	九〇、〇〇
竹入金	八三、〇〇
梅入金	七七、〇〇
繰綿(一圓ニ付)	
本坂上銘大入	七六五(目)
三上銘大入	八二五
三上文庫入	九〇〇
尾上文庫入	九〇〇
遠上文庫入	九〇〇
地綿文庫入	九三〇
八王子織(一反ニ付)	
本糸織鼠物	四、二五(圓)
同替立	五、五〇
同珍柄	七、〇〇
節糸織	三、七五
同瓦斯入	二、五〇
一樂織	七、五〇
同珍柄	八、〇〇
飛地黄八丈	四、〇〇
同大柄	五、五〇
黒地黄八丈	四、〇〇
岸絣	三、〇〇
玉八丈	二、五〇
甲斐絹	三、二五
同本嶋	四、五〇
黒八丈	八、〇〇
同重目	一、〇〇
黒七々子	七、〇〇
白斜子	七、〇〇
仙臺平	八、〇〇
節仙臺	六、五〇
嘉平治平	四、七五
製茶(一貫目ニ付)	
山城江州稀大頭	二、五五(円)
同稀頭	二、一〇
同大頭	一、七五
同中頭	一、五〇
同中茶	一、二〇
狹山稀大頭	二、〇〇
同稀頭	一、七五
同大頭	一、五〇
同中頭	一、三五
同中茶	一、〇五
乾海苔(百枚ニ付)	
洲崎	八五(錢)
大森	八〇
深川砂村	八五
大師河原	七五
潮田	六〇
上總	五五
鰹節(十貫目ニ付)	
土佐上	二五、〇〇
薩摩夏	二〇、五〇
同秋	一八、五〇
伊豆大	二五、〇〇
房總夏	二〇、〇〇
水油(一樽ニ付)	
地水	六、五五(円)
胡麻	一〇、三〇
荏油	九、七〇
桐油	六、〇〇
冬	七、五〇
坂水	七、五三
石油(一箱ニ付)	
チヤスター	一、四九(円)
デボース	一、七〇
ホーキ	一、五六
ロシヤ	一、六九

女學生

當號目錄

第廿一號　二月廿五日發兌せり

女學生
千利休及び茶道論…星野愼

漫筆
愛…山月子〇別離…無名氏〇百感雑筆（實行と無言）…暗光子

所感
早梅を見て…（女子學院）香壽美〇途上所感…（廣嶋英和學校）松山きん子〇瀧鶴臺の妻君…（同上）錦見あや子〇蕎戒（喫煙を誡む）…（女子神學校）森田千子〇家内の枯骨…（廣島英和學校）さゝがに〇新年の决意…（立教女學校）關壬生與

論説
完全なる女學校を求むる人に一言す…（女子學校）秋野すき〇世の風潮に逐はるゝ勿れ…（横濱共立學校）森きよ子〇他山の石以て玉を磨くべし…（長崎梅香崎學校）武藤千子校〇女子の責任…（同上）松添とし子〇友を選ぶは何ぞや…（横濱共立學校）井鹿子〇文學者の筆（乙）…（山陽英和女學校）原たか子

女學生同盟女學校

明治女學校〇立教女學校〇女子學院〇女子神學校〇女子獨立學校〇東洋英和女學校〇青山英和女學校〇廣島英和女學校〇成立學舍女子部〇長榮女塾〇海岸女學校〇頌榮女學校〇フェリス英和女學校〇共立女學校〇金城女學校〇清流女學校〇高田女學校〇梅香崎女學校

定價

一冊。	前金	五錢五厘	郵税。五厘
六冊。	前金	三拾三錢	但郵税共
十二冊。	前金	六拾六錢	但郵税共

本誌は毎月一回廿五日に發兌す〇代價は前金拂込を要す〇爲替は麴町郵便局宛にて振込被下度〇郵券代用は五厘切手にて一割增の事〇見本郵券六錢にて送るべし

皇后陛下
明宮殿下　御覽濟の書

若松賤子譯

小公子

近日　再版　出來上可申候

一冊三十八錢也

郵税一册八錢也

鈴木弘恭大人講述

第四版

百人一首講義

附錄　小倉てびき

新年に至り注文いよ〳〵多く第三版品切に成りたれば玆に第四版を印行し、且つ「小倉てびき」と云ふ、極めて便利の見出を添ゆ、之によりて、百人一首それ〴〵の歌の句の在り處、意味、よみ手などを直ちに見出すことを得る至極重寶の案内書なり。

下六番町六番地　女學雑誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌社出版書目

鈴木弘恭大人述　つれ／＼草講義	一冊	價金八錢
鈴木弘恭大人述　文法口授	一冊	同十六錢
鈴木弘恭大人述　百人一首講義	一冊(四版)	上三十五錢　並二十八錢
船越鼎太郎君著　産婦小兒攝生法	一冊	金十六錢
關輪正路君纂　ひめ鑑	一冊	同四十五錢
中島俊子君著　善惡之岐	一冊	同卅五錢
横山雅男君著　婚姻論	一冊	同十六錢
島田三郎、植木枝盛兩君演說　廢娼演說	一冊	同五錢
巖本善治君述　妓樓全廢	一冊	同五錢
島田三郎、巖本善治同著　公娼可滅	一冊	同四錢
農學士寺尾熊三君著　植物學	一冊	同十二錢
林學士星野愼之介君著　昆虫 植物 金石 採集法	一冊	同十錢
明治女學校教師八木兼辰君著　和書手本	四冊	同一圓
女學雜誌社編輯　演說著作材料	八冊	同四十錢
巖本善治君著　木村鐙子小傳	一冊	同八錢

下六番町六番地
女學雜誌社

下六番町
學校邊賣地三百餘坪有リ
望ノ者ハ下六番町三十八番地刀水堂ニ來談ヲ乞フ

家庭廉價　女學書類發行　女學雜誌社編輯

子供の談　紙數八十葉　郵稅なし　定價十二錢

右は子供の爲になる好きお話にて、母親が言ひ聞かすに結構なる材料なり。第一、田舍音樂師。第二、菫の君。第三、熊と旅人。第四、風と日の喧嘩。第五、ハイ／＼とタダイマ。第六、カンとクッド。第七、王にも勝てる人々。第八、母の愛。第九、柔順なる娘。第十、英雄の所業。第十一、まましき兄妹。第十二、正直な樵夫。第十三、慾婆。第十四、忠義の家來二人。第十五、不思議の新衣裳。第十六、小娘とガマ。第十七、尤も惡き所行。第十八、正直なる小娘。

西洋女禮　紙數六十七葉　郵稅なし　定價十二錢

右は、婦人紹介の事。婦人書面紹介の事。婦人訪問名刺の事。婦人會話の事。婦人案內の事。散步、かざり、宴會の事。食卓上の心得の事。婚姻の事。客を遇する事などに分ち、西洋貴婦人の心得を一と通り平易に解明したり。

移轉廣告

岐阜縣安八郡大垣町大字清水
愛岐震災自助會

女學雜誌大賣捌所

東京。東海堂○同武藏屋○同巖々堂○同重陽堂○同東京堂○同盛春堂○同解明堂○同團々社○同万字堂○橫濱新聞共同發賣會社○大坂福音社○同岡島支店○京都東枝律書店○同大黑屋書店○神戶福音社○函館福音社○熊本草野書店○松江盛進堂

發行所
東京市麴町區下六番町六番地
女學雜誌社
編輯兼發行人　巖本善治
印刷人　堀口庄三

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

鈴木弘恭大人述	つれ／＼草講義	一冊	價金八錢
鈴木弘恭大人述	文法口授	一冊	同十六錢
鈴木弘恭大人述	百人一首講義	一冊(四版)	上三十五錢 並二十八錢
船越鼎太郎君著	產婦小兒攝生法	一冊	金十六錢
關輪正路君纂	ひめ鑑	一冊	同四十五錢
中島俊子君著	善惡之岐	一冊	同卅五錢
横山雅男君著	婚姻論	一冊	同十六錢
島田三郎、植木枝盛兩君演説	廢娼演説	一冊	同五錢
巖本善治君述	妓樓全廢	一冊	同五錢
島田三郎、巖本善治同著	公娼可滅	一冊	同四錢
農學士寺尾熊三君著	植物學	一冊	同十二錢
林學士星野愼之介君著	昆虫植物金石採集法	一冊	同十錢
明治女學校教師八木兼辰君著	和書手本	四冊	同一圓
女學雜誌社編輯	演説著作材料	八冊	同四十錢
巖本善治君著	木村鐙子小傳	一冊	同八錢

下六番町六番地　女學雜誌社

下六番町賣地二百餘坪有リ
學校邊
望ノ者ハ下六番町三十八番地刀水堂ニ來談ヲ乞フ

廉價　女學書類發行　編輯

子供の談
紙數八十葉　郵稅なし　定價十二錢

右は子供の爲になる好きお話にて、母親が言ひ聞かすに結構なる材料なり。第一、田舍音樂師。第二、菫の君。第三、熊と旅人。第四、風と日の喧嘩。第五、ハイ／＼とダヾイマ。第六、カンとクッド。第七、王にも勝てる人々。第八、母の愛。第九、柔順なる娘。第十、英雄の所業。第十一、まましき兄妹。第十二、正直な樵夫。第十三、慾婆。第十四、忠義の家來二人。第十五、不思議の新衣裳。第十六、小娘とガマ。第十七、尤も悪き所行。第十八、正直なる小娘。

西洋女禮
紙數六十七葉　郵稅なし　定價十二錢

右は、婦人紹介の事。婦人書面紹介の事。婦人訪問名刺の事。婦人會話の事。婦人案内の事。散歩、かざり、宴會の事。食卓上の心得の事。婚姻の事。客を過する事などに分ち、西洋貴婦人の心得を一と通り平易に解明したり。

移轉廣告
岐阜縣安八郡大垣町大字清水
愛岐震災自助會

女學雜誌大賣捌所
東京。東海堂○同武藏屋○同巖々堂○同重陽堂○同東京堂○同盛春堂○同解明堂○同團々社○同万字堂○横濱新聞共同發賣會社○大坂福音社○同岡島支店○京都東枝律書店○同大黑屋書店○神戸福音社○函館福音社○熊本草野書店○松江盛進堂

發行所
東京市麴町區下六番町六番地
女學雜誌社
編輯兼發行人　巖本善治
印刷人　堀口庄三

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY